

土木費

町発展の基礎条件となる道路網の整備が主で舗装工事九路線改良工事一路線五千六百八十万円、交通安全対策工事費五百万円、町道排水整備及び直営舗装用資材として二千百万円、その他道路維持補修費七百万一千円、県単事業負担金五百八十万円などを計上しています。

商工費

商工業振興補助金百六十万円、観光振興事業補助金三十五万円、海水浴場整備事業費七十三万円等が主なものです。

諸支出金

有線会計への繰出金百八十九万二千円が主なものです。

災害復旧費

土木及び農林水産施設等の災害防止のため二十一万七千円を計上しています。

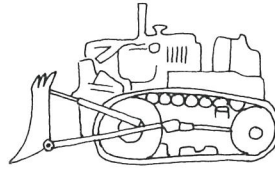
予備費

予測しがたい歳出予算の不足を補うために認められた制度であり、今年度は八百万円を計上しています。

公債費
1億2,649万3千円
(6.4%)



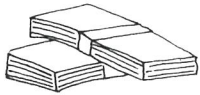
土木費
1億4,067万7千円
(7.2%)



商工費
587万7千円
(0.3%)



その他 (0.5%)
災害復旧費 21万7千円
諸支出金 189万3千円
予備費 800万円



国民健康保険

予算規模は五億六千四百八十九万円で、五十六年度当初と比較して八・二%、四千二百八十九万円の増加です。

歳入については、財政調整基金より繰入金を三千三百六十万円計上したほかは、五十六年度とほぼ同じです。

なお、国民健康保険税総額の応能、応益の負担割合は、応能割七十四%、応益割二十六%です。

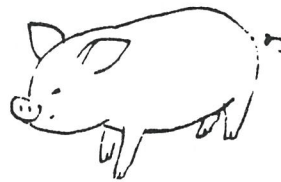
歳出については、療養給付費の医療費改定分二%、自然増八%の伸びを見込んで計上したほかは、五十六年度とほぼ同じです。



5億6,489万円

特別会計

食肉センター



1億6,050万円

予算規模は、一億六千五十万円で、五十六年度当初と比較して三・三%、五百五十万円の減少です。

歳入については、豚十七万頭、牛二千四百頭を見込んだセンター使用料一億一千九百二十一万二千円が主なものであり五十六年度と同一基調です。

歳出についても、インクлайн設置工事費、豚皮剥機購入経費が皆減したほかは、五十六年度とほぼ同じです。

当会計については、長期的財政運営を展望し、今後とも公営企業としての健全性を堅持することを主眼として編成しました。

有線放送

予算規模は、二千六百三十万円で五十六年度当初と比較して七・三%、百八十万円の増加です。

歳入については、一般加入者千八百五十件を見込んだ有線放送使用料二千百十五万九千円が主なものです。

また、繰入金で一千八百五十万円を計上したが、これは一般及び有線業務を兼務する職員の人件費について、業務割合に応じて一般会計から繰入れるものです。

歳出については、五十六年度とほぼ同じであり、増加した主な要因は、人件費が増えたことによるものです。



2,630万円